特定非営利活動法人 GNC Japan
http://www.kyouzon-gnc.com

２０１７年度
ＧＮＣ活動報告

２００４年植林地にて

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

モンゴルの春祭り「ハワリンバヤル２０１７」

【日時】
5 月 3 日(水) 11 時～17 時　　5 月 4 日(木)　10 時～16 時
【場所】
光が丘公園けやき広場（東京都練馬区立光ヶ丘図書館前）

5 月 3 日と 5 月 4 日に、1998 年の第 1 回開催から数えて、今年 17 回目となる
モンゴルの春祭り「ハワリンバヤル 2017」が開催されました。
17 回目を迎える今年のテーマは「遊牧文化に学ぶ自然との共生、明るい未来へ」です。
テーマの説明は「人類が築いてきた様々な文化の中、美しく厳しい自然環境の下で何千年にも渡って形成されてきた遊牧民の知恵と文化には、環境問題が世界的課題になっている今の私たちが学ぶところが多いのではないかと思います。　遊牧民は、「父なる空、母なる大地」と、自分たちが生きるための恵みを与えてくれる家畜と自然との繋がりを深く意識し、自然に対し繊細な敬意を払い、共生する豊かな知恵を蓄えてきた民族です。　私たちは、祖先がどう生きていたかを知って初めて、その命を受け継ぐ次の世代の未来が明るくなると考えています。　今回のハワリンバヤルが、大草原で自然と共生する人間の姿を思い浮かべ、彼らの知恵の表れである遊牧民文化を、より理解していただくきっかけになれば幸いです。」
今年も当日は晴天で、多くのお客様が来てくださいました。
ハワリンバヤルは、スタッフとの久々の出会いの場でもあり、またいろいろな方との出会いの場でもありました。
今年もモンゴルでの植林が始まります。2017 年は 20ha、50,000 本を植林する予定でいます。
売上金及び寄付金は、モンゴルでの植林活動に使わせていただきます。
皆様のおかげで、活動を続けることが出来ています。
誠にありがとうございます。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

第 16 回 ＮＧＯ合同研究＆活動報告会

【開催日時】
2017 年 6 月 11 日（日）15：00～17：00
【プログラム】
１．開会挨拶
２．各団体報告（以下参照）＆質疑応答
３．意見交換
４．閉会挨拶
【発表団体】
『特定非営利活動法人 GNC Japan』
活動地：モンゴル国・日本国
E-mail: kyouzongnc@gmail.com http://www.kyouzon-gnc.com
発表者：小川安里氏（事務局）
テーマ： 2017 年活動報告
GNC Japan がモンゴル国セレンゲ県トジーンナルス(果てしないアカマツ林)に植林を始めてから、 今年で 13 年目となりました。1980 年代～1990 年代の大規模な山火事により、被害に遭った 32,000ha(森林全体の 70%)跡地に、20ha、50,000 本の植林を実施しました。2016 年までに、546ha の土地に、147 万本の植林をしました。
2017 年度は、昨年に引き続き現地のモンゴル人スタッフが植林に関する手配全てを行いました。現地スタッフの体調不良等が重なり、昨年以上に大変ではありましたが、植林そのものは無事終了しました。来年も同様の方法がとれるのか、また他にどのような手段が取れるのか、9 月のスタディツアーでの話し合いが重要だと考えています。

【発表団体】
『一般社団法人地球緑化クラブ』
活動地：中国モンゴル自治区モウス砂漠、モンゴル国セレンゲ県
http://www.ryokukaclub.com
発表者：原 鋭次郎氏（地球緑化クラブ 代表理事）
テーマ：「モンゴルでの新規緑化事業　生態混交造成プロジェクト～セレンゲ県マンダラ蘇木トングリ村～」について
<トングリ村にて活動を始めた経緯>
・中国人モンゴル族スタッフ２名による現地視察
・トングリ村のコミニュティーグループ「イエテン」から支援要請「村の近郊にある山々の木々は違法伐採により、山がはげ山化した、かつての生態系豊かな森を取り戻したい」表土が流出または風食する前に緑化が必要、土地 250ha を無償で借り保護を開始、保護は

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

出来ても回復させることが出来ない。

・2015 年 5 月に植林活動、はげ山を生態混交林にするため複数種の苗木を植栽

〈2016 年から 2017 年に行った植林活動〉

・高木：カラマツ、シベリアマツ

・低木：ニンティアオ、エゾウワズミザクラ

・育苗：カラマツ、シベリアマツ、ニンティアオ、エゾウワズミザクラ

〈2017 年春以降の予定〉

・高木：カラマツ、シベリアマツ

・低木：ニンティアオ、エゾウワズミザクラ

・自然繁殖：シラカバ、他

〈育苗事業〉

・高木類のポット苗及び実生からの育苗

・低木類の播種、育苗

〈小学校での環境教育〉

・GNC の矢野さんから頂いた絵本を活用

・トングリ村の将来を描いてもらう

・協力企業に選考してもらい、3 名にカバンなどの賞をあげる

[中国モンゴル自治区モウス砂漠での活動開始]

・これまでに活動していたクブチ砂漠に最も近い砂漠

・人為的に砂漠化した地域

・新たに臭柏（シュウハク）を用いた生態混交林の造成

[乾物ドライカレーパンプロジェクト]

・料理研究家が中心となりスタート

・今年から 6 月第 1 土曜日は「乾物カレーの日」

・売り上げの一部を砂漠緑化活動に活用

・乾物ドライカレーパン以外に乾物カレーも対象

参加していただいた皆様、ありがとうございました。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

2017 年 GNC モンゴルエコツアー（9 月 10 日～9 月 12 日）報告

1　バヤンチャンドマン村　GNC 苗畑視察

【日時】
2017 年 9 月 10 日 10：30～
【場所】
トゥブ（中央）県バヤンチャンドマン村
【スタッフ】
高橋京子（GNC Japan　事務局長）
バスカ（GNC Mongolia　事務局長　男性）
オグナー（GNC Mongolia　森林・農場・苗畑担当　男性）
サラ（GNC Mongolia　森林・農場・苗畑担当　女性）

1）苗畑づくり

10 時 30 分にバヤンチャンドマン村にある GNC　Mongolia の苗畑に到着し、全体を視察する。スタッフのオグナーさん、サラさんが成果を説明してくれる。今年 5 月に植えたアカマツの苗木は順調に育っている。本数は 7～8 万本。5～8 月は毎日 2 回（朝晩）の水やりをしていた。9 月からは 3 日に 1 回水やりをしている。夏は日差しが強すぎたので日よけの黒いメッシュの幕をかけていた。苗床の両端には生垣を植え、苗を守っている。来年用の苗床も準備済で、こちらの生垣もある。冬は寒気から守るため、厚い幕をかける予定。アカマツは弱いので作業を全て丁寧に行っている。

苗畑の奥に三年前から黒マツを約 1000 本育てている。また土に保水性を持たせ、栄養を土から取らない種類の雑草を生やしている。

2017 年 5 月に植えられたアカマツの苗

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

２　ボルノール村　植林地視察

【日時】
2017 年 9 月 10 日 14：40～
【場所】
トゥブ（中央）県ボルノール村
【スタッフ】
高橋京子（GNC Japan　事務局長）
バスカ（GNC Mongolia　事務局長　男性）
オグナー（GNC Mongolia　森林・農場・苗畑担当　男性）
サラ（GNC Mongolia　森林・農場・苗畑担当　女性）

１）森づくり

2015 年植林地は活着率 0%、隣にある 2016 年植林地は水不足のため 5%しか残っていなく、残っているものも伸びていない。少し離れた場所にある 2017 年植林地に今年も 1 ヘクタールに 2500 本のアカマツを植えたが、活着率 0%で枯れていた。今年の深刻な干ばつが原因で、国の農作物も干ばつのため 20～30%が育たなかった。植林の後、6～8 月にほぼ雨が降らなかった。

ボルノール植林地周辺

残っていた苗

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

３　ジャルガラント村　植林地視察

【日時】
2017 年 9 月 10 日 17：45～
【場所】
トゥブ（中央）県ジャルガラント村
【スタッフ】
高橋京子（GNC Japan　事務局長）
バスカ（GNC Mongolia　事務局長　男性）
オグナー（GNC Mongolia　森林・農場・苗畑担当　男性）
サラ（GNC Mongolia　森林・農場・苗畑担当　女性）

１）森づくり

2015 年植林地は活着率 0%、2016 年植林地では 50%が残っている。去年再植林もしたが、柵が動物に壊され苗が食べられている。かなり背の高いマツも生えており、松かさがたくさん落ちていた。自然に育ったマツも多いが、大きく育つには間伐が必要だ。

2016 年植林地の丘を下り、もう一度丘を上った場所に 2017 年植林地がある。様々な植物が自生している場所。今年も 1 ヘクタールに 2500 本のアカマツを植えたが、ボルノールと同じく、深刻な干ばつのため活着率は 10%。

環境がいい場所だと木は育つが動物も人も集まり食べられたり伐採されたりする。環境が悪い場所だと動物や人は来ないが木が育たない。

ジャルガラント植林地

自然に育ったマツ

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

４　セレンゲ県　植林地視察

【日時】
2017 年 9 月 11 日
14：40～（植林地：2004 年秋万博）
14：45～（植林地：2010 年春）
17：00～（植林地：2004 年春）

2017 年 9 月 12 日
8：45～（植林地：2006 年春）
11：00～（植林地：2015 年春、2014 年春）
11：40～（植林地：2016 年春）
13：15～（植林地：2017 年春）
14：05～（植林地：2008 年春）
14：30～（植林地：2007 年春）
16：40～（植林地：2012 年春）

【場所】
セレンゲ県トジンナルス他
【スタッフ】
高橋京子（GNC Japan　事務局長）
バスカ（GNC Mongolia　事務局長　男性）
オグナー（GNC Mongolia　森林・農場・苗畑担当　男性）
サラ（GNC Mongolia　森林・農場・苗畑担当　女性）
【参加者】
ジャムスレン（元・森林・動物センター長　男性）

１）森づくり
・2004 年秋万博（2005 年愛・地球博のプレイベントの際の植林地）
　活着率 20%。雨が 5～７月の間、全く降らない。８月半ばから雨が多い。（必要な時に降り、不要な時に降る）家畜に食べられている木もある。

・2010 年植林地
　一昨年と変わらず 80%の活着。以前は動物に食べられていたがジャムスレンさんが近隣住民に呼びかけ、家畜が入らないようにした。青々としたマツがきれいに整列して育っており、遠くから見ても植林の成果が分かる。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

・2004 年春植林地

活着状況は去年と変わらず 90%。立派な森になっていた。ストレスで葉が黄色くなっているマツがあったがこれは時間が経てば直る。病気で黄色くなった部分が地面に落ちているのがあるが、これは放置すると問題になるので、後で処理をする予定とのこと、ジャムスレンさんより。

・2006 年植林地

活着率 75%で他の木も生えている。リスや鹿を発見した。病気の木は切ってその場で燃やしている。60km に及ぶトジンナルスの森は、再植林しなくていいほど復活した。周辺住民が協力して家畜が来ないようにしている。だが最近は、鳥やリスなどがエサ不足で種を食べてしまう。

・2015 年、2014 年植林地

活着率はいずれも 50%。小高い丘で国境付近のため鉄砲の音が聞こえる。今年の伸びは良かった。他の木はあまり生えていなく、ところどころ大きなマツが生えている。

・2016 年植林地

活着率は 85%。今年は雨が少なかったが無事に育っていた。自然にマツが新しく生えて、花も咲いている。

・2017 年植林地

活着率 90%でとてもよく育っていた。オグナーさんは到着した途端に走ってマツが植えられている場所に向かった。マツが無事に育っているか心配だったのだそうだ。今年の深刻な干ばつに負けず、よく育ってくれた。2014 年～2016 年の植林地は続いているが、2017 年の植林地は道路を挟んだ向かい側にある。

・2008 年植林地

火事の跡地だが、少しずつ復活しつつある。現状の活着率は 20～30%。4mになるマツもあった。

・2007 年植林地

活着率は 70%。3 メートルを超すマツもあるので高さもあり密度もある。さすがに 10 年目ともなると安定した、頼もしい森になってきている。

・2012 年植林地

活着率は 70%で順調だ。下草から青々としたマツが顔を出し、列を成している。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

2004 年秋万博植林地

2010 年植林地

2004 年春植林地

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

2004 年春植林地

2006 年植林地

2014 年植林地　　2015 年植林地

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

2016 年植林地

2017 年植林地

2017 年植林地

2007 年植林地

2012 年植林地

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

５　　青少年育成特別教育センター訪問　文具の寄付

【日時】
2017 年 9 月 17 日 11：00～
【場所】
ウランバートル市立　青少年育成特別教育センター
【スタッフ】
高橋京子（GNC Japan　事務局長）
バスカ（GNC Mongolia　事務局長　男性）
【参加者】
ダムディンスレン（ウランバートル在住　男性 60 代）
エフシンツェレン（ウランバートル在住　女性 60 代）

１）概要
神戸市の学習塾、株式会社ティエラコムの生徒の皆さんから「勉強を頑張って貯めたポイントを使用してモンゴルの施設へ文具を贈りたい」という申し出があり、ＧＮＣが文具の寄贈を代行した。また、同ポイントは本年の植林費用にも使用された。

２）施設について
　11 時ちょうどに施設に到着し、車を停めた。文具を車から降ろす際、生徒さん達が走り寄って、荷物を運ぶのを手伝ってくれた。校長先生のラムスレン先生が迎えてくれ、施設についての説明を受けた。1991 年に設立し、現在 90 名の生徒が在籍しており、年齢は 3 歳から 17 歳まで。ウランバートルの最も貧しい子どもたちを区ごとに調べて受け入れている。生徒の皆さんは、一生懸命勉強やスポーツをがんばっている。18 歳から 21 歳の生徒は隣に併設されている職業訓練の専門学校に通い、それぞれ就職（または起業）のために専門技術を学んでいる。

施設の正面入り口

校長室にて

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

３）文具の受け渡し

いよいよ生徒の皆さんと対面。ホールに着くと、80 名の生徒の皆さんが、整列して待っていてくれた。

校長先生から歓迎の挨拶があり、その後高橋が皆に挨拶をした。

そして文具の配布が始まる。上級生が下級生に、一つ一つを手渡ししていく。配布を待つ生徒さんの表情は、ドキドキ、わくわく、そわそわ。興味深そうに、受け取った文具をじーっと見つめる生徒さんの姿も。ティエラコムの日本の生徒さん達の気持ちを受け取り、有意義に文具を活用してほしいと願う。記念撮影では、受け取った文具を嬉しそうに高々と掲げポーズをとってくれた。

しばし歓談の後、生徒の皆さんの表情がわずかに真剣味を帯びる。そして再度整列をし、一体何が始まるのかと思いきや、校長先生の掛け声とともに、80 名の大合唱が始まった。

なんとも言えない素晴らしいハーモニーだ。手拍子が入りつつも、しっかりとした重厚なメロディーに乗せられた、心の奥を揺さぶられるような歌声に驚きと感動を隠せない。続いて２曲目は、ゆったりとした曲調で始まった。サビの部分が高音域になり、モンゴルの大自然の美しさと雄大さを感じた。

日本から来た私たちは、思いがけず歌のプレゼントを受け取った。お礼を伝え、生徒の皆さんとハイタッチを交わし、別れの挨拶をした。

施設を案内して頂いた後、私たちは別れの挨拶をし、再会を願い、施設を後にした。
校長先生からは、「今回、施設を訪問してくださり、生徒達に本当に必要な文具を頂き、大変感謝しています。ティエラコムの皆様と、ＧＮＣの皆様のご健勝をお祈りしています。」との言葉を頂いた。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

上級生から下級生に文具を配布

たくさんの文具ありがとうございます！！

サプライズの歌のプレゼント

透き通る歌声　心に響きます

４）歌のプレゼント　歌詞和訳

１曲目

人の住む世は喜びの気持ちが溢れる
子どもの心のようなきれいな景色のもとで
モンゴルのナーダム（夏祭り）の空で大きく羽ばたく
たくさんの喜び　　歴史を作りながら
明るい気持ちで　　自由に溢れる
未来は遠くまで　　はっきりと明るく見える　　たくさんの喜び

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

２曲目

どんなにいい人達を　　神様が私に会わせてくれたのだ
満月の下でどんな言葉でも言い表せない　　人の心はどんなに広いのだ
もっともっと広い心で　　この気持ちを大切にしてゆきます

今回のツアーメンバー

セレンゲ県に出発する朝

2004 年春植林地にて

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

オ　グ　ナ　ー

サラ

バスカ

高橋京子

ジャムスレンさん

運転手さん

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.